

平成 22 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名 (注: 学位論文題名が欧文の場合は和訳をつけること)

福山型先天性筋ジストロフィーにおける Gross Motor Function Measure の有効性
—粗大運動機能と年齢との関係—

学位の種類: 修士 (理学療法学)

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 理学療法科学域

学修番号 9895604

氏名: 長谷川三希子

(指導教員名: 新田收教授)

注: 1,000 字程度 (欧文の場合 300 ワード程度) で、本様式 1 枚 (A 4 版) に収めること

福山型先天性筋ジストロフィー(以下 FCMD)は日本人に限定した疾患で、筋ジストロフィー病変と脳奇形の病態より複雑多様な臨床症状を示す。福山型先天性筋ジストロフィー症における運動機能レベル(以下「運動機能レベル」)では、その特徴的な機能を簡易的に評価できるが、FCMD の粗大運動機能を総合的かつ詳細に捉えることは困難である。本研究の目的は、FCMD の評価尺度として Gross Motor Function Measure(以下 GMFM)の有効性を検討することである。同時に年齢と粗大運動機能との関係を分析した。

対象は FCMD 児者 40 名、男性 21 名、女性 19 名、平均年齢は 10.0 (SD4.3) 歳 (2-20 歳) であった。評価は GMFM を用い、全て一人の理学療法士が施行した。

GMFM の項目 C、D、E の四つ違い、立位、歩行の項目はほぼ遂行できなかった。よって、GMFM の総得点、項目 A の臥位と寝返り(以下臥位項目)、項目 B の座位(以下座位項目)について検討をした。結果、GMFM は FCMD の評価尺度として高い信頼性と妥当性が確認された。散布図を作成し粗大運動機能と年齢との関係を検討した。「運動機能レベル」では年齢との間に関係は見られなかったが、GMFM 総得点では年齢との間に負の相関を認めた。特に 3 歳以降の 38 名では、総得点が $R=-0.71$ ($P<0.05$) と強い相関を認め、「運動機能レベル」では捉えられない粗大運動機能と年齢との間に関連性を見出すことができた。GMFM の項目から検討すると、臥位項目は $R=-0.76$ ($P<0.05$) で年齢との間に強い相関を認めた。一方、座位項目は座位能力の有無で 2 つのグループに分かれ、年齢による変化は捉えられなかった。つまり、臥位項目は 3 歳以降年齢に伴い運動機能が低下し、座位項目は一度獲得した座位能力は維持される傾向を示した。また、座位項目は 2 つのグループともに年齢による得点の変化は少なく、GMFM が FCMD の座位能力を十分に反映できない可能性も示唆された。

今回の研究で、FCMD の評価尺度として GMFM の有効性について示し、年齢と運動機能との間に一定の関連性を見出すことができた。しかし、座位項目は FCMD の座位能力について詳細に捉えることはできなかった。今後、GMFM では評価できない、いざり移動や座位能力等 FCMD の粗大運動機能の特殊性について検討していく必要があると考える。